

日常化を否定し サークルで討論を

厳しい校舎と鉄格子の中での授業再開に我われは日常化におちいろうとしている
疑いもなく無心にノートをとるその目の中に
この一年間の我々の哲学はどこへ行こうとして
いるのだろうか。

日大での斗いは人間に与えられた全ての精神
の歯車がわずかに十滴の油でふる回転した、疑
い、行動、思惟、そして自己矛盾と挫折……
この無限の精神が一年間の長い斗いを発展さ
せてきた。しかしその中で我々は単に社会の
矛盾だけをあばき出したのだろうか、現体制
の腐敗と人間の無力化だけをおもい知らされ
たのだろうか。

いやちがう!! それだけではあまりにも人間
というものがあじけなく貧弱なものだ
我々の行動の中で、そして思惟の中で得よう
としたものは、尤きな社会にちっほけに存在
してクク、クク生きている真の人間性の追求だ
った。

真の人間性?

それが不可能で困難なことであり、たとえ個に
とって無意味なことであろうとも 培われた
哲学はそこから黙って逃避させはくれない
だろう。

質問しても答えようとしなれロボット化さ
れた教授に、母をつぶって授業をうけること
もいいたろう。しかしその対象の中に求める
学問があるのでないことを我々は知っている

そして七号館の鉄格子はとてつもなく強い
精神も肉体もともに日常化へと転落しよう
としている現在、内からの叫びを素直に表現す
る場を我々はきずきあげねばならないだろう

権力が襲いかかろうとしている今、自己に
いつわることが敗北を意味するから。

☒ 青紙徹廃

☒ 七号館内での討論の場を我々
の手で

☒ 学部団交勝利

☒ 大学治安立法粉碎

全ての学友はクラス:サークル討論 に結集しよう!!

—サークル連協—